

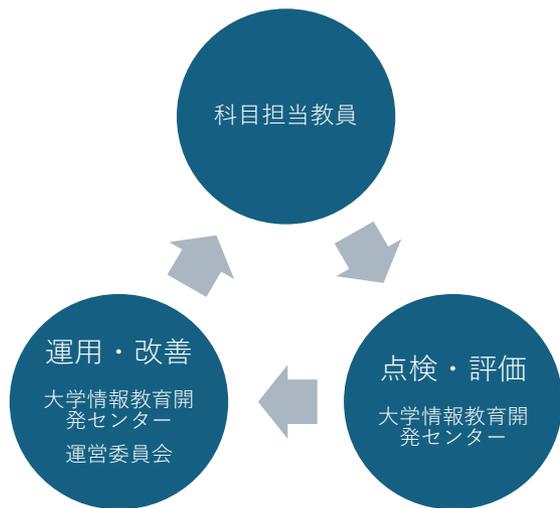
大学等名	椋山女学園大学 情報社会学部	申請レベル	応用基礎レベル（学部・学科等単位）
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育応用基礎プログラム	申請年度	令和 7 年度

取組概要

目的

Society5.0の基盤に係る数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を身につけ、それらを業務に効果的に活用できる人材を目指すための教育プログラムです。本プログラムはデータサイエンスやAIに関する基礎知識を身につけ、社会の様々な問題解決にアプローチする力を養うことを目的とします。

実施体制



科目構成と修了要件

学部・学科	科目名	プログラム修了要件
情報社会学部 情報デザイン学科	AI・データと社会（1年次）	教養教育科目の「AI・データと社会」（2単位）と専門教育科目の「情報基礎数学」（2単位）、「データサイエンス入門」（2単位）、「データ分析入門」（2単位）の4科目（8単位）を修得すること
	情報基礎数学（1年次）	
	データ分析入門（1年次）	
	データサイエンス入門（2年次）	
情報社会学部 現代社会学科	AI・データと社会（1年次）	教養教育科目の「AI・データと社会」（2単位）と専門教育科目の「社会調査入門」（2単位）、「社会データ分析基礎」（2単位）の3科目（8単位）を修得すること
	社会調査入門（1年次）	
	社会データ分析基礎（2年次）	

全学共通開講 教養教育科目（領域7 トータルライフデザイン）の「AI・データと社会」に加え、情報デザイン学科では、「情報基礎数学」「データ分析入門」「データサイエンス入門」の3科目、現代社会学科では、「社会調査入門」「社会データ分析基礎」の2科目を修得することで、応用基礎レベルの基礎的な知識と分析技能を獲得します。「AI・データと社会」はオンデマンド形式、そのほかの科目は対面形式です。

身につけられる能力

【情報デザイン学科】社会の様々な場面で、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するために、基礎となるデータ分析やプログラミング技術を習得する。データの基本統計量が求められることができ、基礎的な相関分析と回帰分析ができるようになる。また、データの可視化ができるようになる。問題に対する適切な手法を選択し、基礎的なデータ分析ができるようになる。

【現代社会学科】社会調査に関する基礎知識・技法を体系的に学ぶことを通じて、課題を深く理解することができるようになる。自らの関心に沿って実際に調査を設計・実施していく際に必要となる作法や手順を身につけることができるようになる。